

メディアコンテンツ化でまちに新風

うなぎパイで知られる春華堂と浜松いわた信用金庫の支店から成る「スイーツバンク」。テーブルと椅子をモチーフとしたデザインがSNSなどで世界から注目を集め、浜松市神田町に新たな賑わいの場を創出しました。



SNSなどで話題を呼び、観光拠点となったスイーツバンク。

まちの大きなリビングをつくる

JR浜松駅から南西に約2km、中心市街地の周縁部にスイーツバンクは位置します。敷地周辺の神田町は、浜松市内でも稀有な地区で人口が増加しているものの、まちの活気や近隣企業同士の連携は年々衰退している状況でした。1960年代からこの地に本社を構えていた老舗菓子店である春華堂は、その本社と店舗、工場を建て替えるにあたり、「地域の皆さんへの恩返しをしたい。見たことのないもので印象や記憶に残る体験を提供し、来てくれた人を楽しませたい」という強い思いを抱いていました。併設した浜松いわた信用金庫支店もまた、まちに開かれた店舗を目指しており、ガラスを用いた透明感のあるファサードやギャラリーとの複合などを実現してきました。

そうした地元企業の思いを受け、スイーツバンクの字義通り、菓子店×銀行の相乗効果を高める複合施設のあり方を模索。両者の共通点は人生の節目を祝う「アニバーサリー（記念日）」だと位置づけました。まちをひとつの家と見立て、一家団欒を象徴するダイニングテーブルと椅子を具象化した、「まちの大きなリビング」というコンセプトが生まれました。

春華堂のカフェや物販店舗、銀行のロビーやATMなど、各用途毎の機能やサイズ、イメージに沿って、13倍にスケールアウトした家具を分棟配置。通常のテーブルの高さが約750mmで、敷地の高さ制限が10mであることから13倍という大きさを導き出しました。来訪者が家具やオブジェの間を自由に回遊し、様々な角度から見て楽しめる非日常の空間を創出しました。



アニバーサリー（記念日）の一家団欒を具象化した家具。



スイーツバンクを背景に写真を撮る来訪者。

情報発信する巨大家具と機能を担保するガラスボックス

巨大家具のかたちをビルにすること——。クライアントから与えられたアイデアを実際の建物として成立させるために、さまざまな検討を重ねました。

家具の一見装飾的な佇まいは、まちにとってキッチンなものになるのではないかと懸念もありました。しかし、SNS時代における建築のひとつの重要な機能だと捉え直し、徹底的にデザインを洗練させていくことで、初めは難航した浜松市との景観協議においても理解を得ることができました。家具部分は四方からの見え方を追求し、鉄筋コンクリート表面の木目も13倍になるように専門の職人に塗装を依頼。空調の屋外機など外部に出てしまう設備部分は、ショッピングバッグやプレゼントの箱で覆い、サインは値札で表現するなど、細部にこだわることでリアリティを高めています。一方、居住空間である入れ子状のガラスボックスは、家具の背景となるように、抽象的でシンプルなデザインとしました。

建物のセキュリティや防災性能は、家具とは構造的にも独立させたガラスボックス毎に担保しています。1階には、来訪者が利用できる店舗やカフェ、会議室、銀行窓口を配置し、2階にはオフィスを入れるなどパブリックゾーンを明確に区分。またガラスボックスの内側は開口部の少ない内壁とすることで環境性能も確保しています。

地域再生のシーズとなるメディアとしての建築

竣工後、異彩を放つ建物がSNSなどで話題を呼び、コロナ禍にも関わらず1年で約40万人の来訪者を集めました。これまで40代~60代を中心としていた客層に加え、10代~30代の若者が増え、新たな人流を生み出しています。国内外の観光サイトからの掲載依頼や問い合わせも多く、これまで観光客が少なかった浜松を訪れる大きな動機付けとなっていると言えます。

訪れた人は、建物内外のオブジェ撮影に留まらず、椅子に腰掛けて見える視点場からの“映える”写真投稿など、様々なかたちでリアルな場を楽しみながら、SNSを通じた交流を行っています。建築と人とのコミュニケーションが生まれていることの証左です。周辺では同業他社が改修時に大きなコップを作成するなど、スイーツバンクのスケールにまちが同調し始め、スイーツのまちとしての成長していく兆しも見え始めています。浜松いわた信用金庫内の公益施設「ツノがたつ」が、地域の人々によるワークショップやミーティングに利用されるなど、今後の地域連携強化の一助になることも期待されます。

地元を元気にしたいというクライアントの思いが、素直に無理なく手法につながったプロジェクト。1枚の写真が人々の心を掴み、瞬間に世界へと広まる現代のSNS社会において、メディアコンテンツとして力のある建築は、人口減少で伸び悩む地方都市に新たな風を吹き込み、企業と地域の発展を支える存在となっています。



家具とガラスボックスは入れ子状に配置し、家具らしく見えるバランスを追求した。
©Kenta Hasegawa



ガラスボックスの内側は開口部を少なくしてセキュリティや環境性能を確保した。
©春華堂



神田町周辺は、スイーツのまちとして生まれ変わりつつある。
©Shohei Nakai

プロジェクト名称: スイーツバンク 建築主: 有限会社 春華堂
竣工年: 2020年
受賞歴: 2022年愛知県建築士事務所協会建築賞、2021年SDA賞